

研修事例

人材育成

支援先

県内中小企業

次世代技術活用人材育成事業

【概要】

本事業は県内中小企業の研究開発人材の育成を目的に、平成28年度から実施しております。

人材育成を課題に挙げる企業は多く、特に「開発設計のリーダーを育てたい」「次世代技術を事業に活かせる人材を育てたい」という要望に対応するため、以下の研修を実施しました。

① 開発リーダー育成コース（表1）

- ・期 間：（開発者総論）令和6年 7月 19日
7月 25日
（開発者実践）令和6年 8月 29日
8月 30日
9月 6日
- ・修了者：（開発者総論）16社 19名
（開発者実践）13社 16名
- ・内 容：研究開発に必要な基礎知識の修得



図1 開発リーダー育成コースの様子

表1 開発リーダー育成コースの内容

コース	実施内容
開発者総論	ものづくり、生産性、 チームの生産性と意思決定、 市場とマーケティング、 産学官金連携、センター業務紹介
開発者実践	プロジェクトマネジメント実践 製品開発、知的財産実践

表2 技術修得コースの内容

コース	実施内容
デジタル技術	リバースエンジニアリング、AI
IoT活用	センシング技術
分析評価	品質保証に向けた不具合解析
産業用ロボット	安全特別教育（教示・検査）

② 技術修得コース（表2）

- ・期 間：令和6年 7月 18日から
令和7年 2月 6日まで
- ・修了者：26社 47名
- ・内 容：研究開発に役立つ技術や手法の修得

表3 機器操作コースの内容

対象機器	三次元測定機、スガ摩耗試験機、 走査型電子顕微鏡、 RF イミューニティ機器、EMI 機器、 X線回析装置、蛍光X線分析装置、 射出成形機、分光測色計等
------	--

③ 機器操作コース（表3）

- ・期 間：令和6年6月～令和7年2月
（各設備 半日程度）
- ・修了者：11社 28名
- ・内 容：研究開発に向けた機器活用法の
修得

【研修の成果】

研修で学んだことを、企業の新たな取組に活用していただいております。例えば、技術修得コース（IoT活用）に参加した受講生は、学んだことを活かし、異常が発生したことを作業者に報告するシステムを導入するため、作成にチャレンジしています。

基礎となった事業

令和6年度 次世代技術活用人材育成事業

担当グループ

IT・マテリアルG グループ長 青木 邦知 TEL:029-293-7482
技 師 小松 優陽
会計年度職員 沖島 由幸
会計年度職員 楯 尚史